

令和7年2月5日

三鷹市議会議長 様

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 三鷹市議会 自民クラブ 代表者名 土屋 けんいち

1 視察年月日	令和7年1月29日(水) ～ 令和7年1月30日(木) (1泊2日)
2 視察者氏名	<u>土屋 けんいち</u> <u>加藤 こうじ</u> <u>池田 有也</u> <u>伊藤 俊明</u> <u>吉田 まさとし</u> <u>太田 みつこ</u> <u>吉野 けんさく</u> 計 7人
3 視察先及び 視察項目	(1) 大阪府 枚方市 ア) 「ひらかたポイント事業」について (2) 兵庫県 たつの市 ア) 「空き家等対策」について
4 視察結果等	別紙のとおり



三鷹市議会 自民クラブ
会派視察報告書①

【1:日程】 令和7年1月29日(水)

【2:視察地及び視察項目】 大阪府 枚方市

(1) 「ひらかたポイント事業」について

【3:視察報告】

<市の概要>

枚方市は、西に淀川が流れ、東には緑豊かな生駒山系の山々が広がっている。地域一帯は古くから人々が暮らし、平安時代には貴族の遊獵地として知られ、江戸時代には京街道の宿場町として栄えた。近代になると近郊農村から住宅のまちへ徐々に変ぼうを遂げ、戦後は大規模な住宅団地の開発により人口は急増。また近年、市内には5つの大学が所在し、21世紀の新たなまちのイメージとして、「学園都市」を目指している。

同市は昭和22年8月1日、大阪府下12番目の市として誕生。当時4万人だった枚方の人口は現在約40万人。東西12キロメートル、南北8.7キロメートルで、面積は、65.12平方キロメートル。市の中央部を国道1号が縦断し、市の西部を京阪電鉄が、東部をJR学研都市線が走っている。

<ひらかたポイント事業について>

1. 目的

平成30年度に開始した「ひらかたポイント事業」は、ポイントを活用した市民の健康増進や高齢者のICT利用促進にかかる取り組み等を推進してきた。令和3年度からは当初の「ICカード方式」からQRコードを利用した「アプリ方式」に変更するなど、利用者の利便性の向上に努め、現在に至るまで、事業の活性化に向けた取り組みを進めている。

2. 背景

少子高齢化等に伴う人口減少が顕在化している枚方市では、今後も続く高齢化により健康リスクの増大や社会保障関係費の増加、更なる生産年齢人口の流出が懸念されていた。こうした中で「市民の健康増進」「子育て支援」「市民のまちづくりへの参加意欲醸成」の効果が期待されると同時に、「地域の商業振興」を図る取り組みとして「ひらかたポイント事業」は考案された。

3. 取組の概要

①健康増進を目的としたポイント付与

- ・特定健康診断や保健指導、各種予防プログラムに参加した市民に対しポイントを付与すると同時に、ウォーキングや禁煙に取り組む市民、市主催の健康講座を受講する市民に対してもポイントを付与している。

②子育て支援と連動したポイント付与

- ・妊婦届出、母子健康手帳別冊交付申請をした方への妊婦支援ポイントやファミリーサポートセンターの新規提供会員登録者、子育て講演会の受講者へのポイントを付与している。

③公共交通機関との連携

- ・貯まった「ひらかたポイント」を市内における地域公共交通の要となっている路線バス(京阪バス)の「京阪バスポイント」と交換できるほか、タクシークーポンにも交換できる仕組みとなっている。

④商業振興

- ・貯まった「ひらかたポイント」を市内の参加店舗での買い物に利用できるほか、買い物した店舗でポイントをためることが出来る仕組みとなっている。

4. まとめ

ひらかたポイント事業は「健康増進」を目的に開始した経緯もあり、ポイント付与の重点は特定健診などに置かれていた。ウォーキングでも歩数に応じてポイントを付与するなど、日常的な活動の中で健康を意識するよう動機付けがなされており、地域ポイントを広めていく工夫は参考になる取り組みであった。

また、導入以降は年々参加店舗が増加傾向にあると同時に、三鷹市のポイント事業と異なる点として、参加店でも買い物金額に応じてポイントを付与できるといった制度設計となっていることは、ポイント事業を通じた商業振興の観点から、今後の三鷹市での事業展開でも導入を検討する意義が高いと感じた。

ひらかたポイント事業では地域の公共交通の柱でもある路線バスでも利用可能で、外出機会の創出による健康増進と市民の移動の利便性向上につながる取り組みとして効果を発揮しており、今後本市でも「みたか地域ポイント」を地域通貨的な存在として発展させる上で議論の参考にしたいと思う。

様々なメリットがある一方、抱える課題としては高齢者の利用が多く、若い世代にも普及させたいとの説明があった。現時点では枚方市が企画する子育て事業にもポイント付与をすることで利用機会の創出を目指しているとのことであった。今後の動向を注視するとともに三鷹市でも今後様々な世代に普及させるため、効果を検証し政策提案に活かしたいと思う。

三鷹市議会 自民クラブ
会派視察報告書②

【1:日程】 令和7年1月30日(木)

【2:視察地及び視察項目】 兵庫県 たつの市

(1) 「空き家等対策」について

【3:視察報告】

<市の概要>

三鷹市の姉妹都市でもある「たつの市」は、南北に流れる自然と歴史が豊かな揖保川とともに発展を遂げてきた。この地域にとって貴重な存在である揖保川を軸に、北部の山々や原生林・鶏籠山などの豊かな緑、瀬戸内海国立公園にも属する関西随一の遠浅海岸・新舞子浜、梅林などの自然資源や、国指定史跡の新宮宮内遺跡、国指定重要文化財の賀茂神社、永富家住宅、堀家住宅、また、龍野城と脇坂藩5万3千石の城下町に連なる古い町並み、江戸時代に海の宿駅として栄えた室津港などの歴史的資源も豊富に有している。これらの地域資源を様々なイベントなどに生かすことで、多くの人が魅力的な自然・歴史資源を訪れ、活発な交流が行われている。

さらに、播磨科学公園都市では世界最高性能の大型放射光施設 SPring-8 と X 線自由電子レーザー施設 SACLA、兵庫県立大学など学術研究機関が集積。保健・福祉・医療や教育の分野でも粒子線医療センター、西はりま特別支援学校や西播磨総合リハビリテーションセンターなどがあり、豊かな自然環境のなかで、21 世紀の科学技術の発展を支える学術研究機能と優れた先端技術産業を中心に、快適な居住環境を備えた国際的な科学公園都市を目指して整備が進められている。

総人口は、平成7年までの推移では、一貫して増加の傾向が続いたものの、平成12年では微減となり、現在はおよそ7万5千人ほどとなっている。

<空き家等対策について>

1. 目的

適正な管理がなされていない空き家は、防災、衛生、景観などの様々な面で地域住民の生活環境に悪影響を及ぼすため、その対策として、たつの市では空き家等に関する施策を総合的、計画的かつ効果的に推進していくため、「たつの市空き家等対策計画」を策定し、空き家の発生抑制や利活用の促進、管理不全状態の解消など、総合的な対策に取り組んでいる。

2. 背景

近年のかつてない人口減少、少子高齢化、核家族化が進行するとともに、既存住宅の老朽化、社会ニーズの変化等に伴い、空き家等が年々増加した。

さらに空き家等の中には、適切な管理が行われていない結果として、倒壊、火災、公衆衛生の悪化、景観の阻害等多岐にわたる問題を生じさせ、周辺の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす問題が顕在化している。

今後、ますます空き家等の数は増加していくことが予想されることから、たつの市では各種実態調査の結果及び空き家等対策特別措置法などの趣旨を踏まえ、たつの市として空き家等対策に関する基本姿勢を市民に示すとともに、空き家等に関する施策を総合的、計画的かつ効果的に推進していくため、「たつの市空き家等対策計画」を策定し対策を図っている。

3. 取組の概要

①空き家等の発生抑制と適正管理

- ・地域との連携による空き家の早期発見・早期対応を図っているほか、相続手続きの円滑化に向けた支援、福祉的な支援が必要な所有者への対応、民間サービス等を利用した適正管理の啓発などに取り組んでいる。

②空き家等の利活用の促進

- ・空き家バンク制度を実施しているほか、隣地が空き家になった際の取得に対する支援、空き家等の改修に対する支援などを実施している。

③管理不全状態の空き家及び特定空き家等の改善と解消

- ・適正な管理がなされていない空き家等に対する措置として、管理不全状態の空き家の認定や改善措置と特定空き家などの認定、改善措置、除去の推進を図っている。

4. まとめ

たつの市の空き家等の状況は人口減少などに伴い増加している。

平成25年から10年間の数字で空き家が増加しており、特に利用目的が明確でなく放置されている「その他空き家」に分類される空き家が全国、兵庫県から見ても多く、今後も増加が予想されることから、利活用や適正管理、除去といった対策に取り組む必要があるとされ、「空き家等対策計画」に基づき対策を実施している。売買、賃貸希望者相互のマッチングを図る「空き家バンク事業」では、宅地建物取引業協会、不動産取扱業者に仲介を依頼する形で連携して物件登録、利用登録とも年々件数が増えていて効果が出ている。また、利活用の補助事業「空き家活用支援事業」として今年度から隣地統合支援事業を開始したところ、相談件数は多く、実績も出ているとの事であった。

たつの市は、空き家の発生抑制に注力して利活用を促進していることが良く理解できた。

三鷹市においても空き家問題は、今後の課題となってゆくと考える。防災、衛生、景観などの様々な面で悪影響を及ぼすため、空き家の発生抑制や利活用の促進、管理不全状態の解消など、現在三鷹市で行っている空き家対策も様々な角度から更なる取り組みが必要と感じた。